

アーティストコメント・プロフィール①

錆びついた街から不思議な SL が発車する。現実と空想が入り混じる世界を、心と体を揺らして進む。どんな乗客を乗せ、どんな風景に出会えるのか。汽笛を高らかに響かせ、思いっきり蒸気を吹き出し駆け抜ける。最高の仲間たちと、新たな世界を紡ぎたい。

森山開次



森山開次画

■ 森山 開次 もりやま かいじ / 演出・振付



©石塚定人

舞踊家 / 振付家 / 演出家

2005年ソロダンス『KATANA』でニューヨークタイムズ紙に「驚異のダンサー」と評され、07年ヴェネチア・ビエンナーレ招聘。13年芸術選奨新人賞。同年文化庁文化交流使。20年新国立劇場バレエ団『竜宮』演出振付美術衣裳。21年東京2020パラリンピック開会式演出・チーフ振付。能・雅楽など伝統芸能とのコラボレーションや福祉施設に滞在しての映像制作など、実験的なプロジェクトに数多く取り組む傍ら、23年ドキュメンタリー「GIGAKU! 踊れシルクロード」(NHK BS) 前後編メイン出演、舞台『千と千尋の神隠し』カオナン役、映画出演など、ダンサーと演出家の両面でジャンルを自在に横断した活動に組み込み、現代のダンスシーンを牽引するアーティストの一人である。2024年指揮者井上道義氏の最後のオペラ『ラ・ボエーム』演出振付美術衣裳で全国7都市公演予定。

作品ノート

今
旅立ちのとき
目の前に敷かれたレール その先に続く未来 曇天に覆われた空と心
少女は小さな勇気を胸に摩訶不思議なSLに乗って旅に出る
不思議な旅人たち
一つの出会いが、次の出会いに繋がり 連結して走り出す
人生は最初で最後のラストラン
さまざまな出会い まだ見ぬ風景 真っ暗なトンネル
小さなSLは 運命を高らかに奏でながら

まだ見ぬ世界へ 駆け抜ける

この「TRAIN TRAIN TRAIN」は、
東京2020パラリンピック開会式直後に、描いた一枚の「蒸気機関車の絵」から始まった。

あの場で出会った沢山の人びと
夢と願い 苦悩と困難 喜びと歓喜
様々な出来事があった。
だが 式典は「最終目的地」ではなく
ここから旅が始まるのだと、心に刻んだ瞬間でもあった。
まだ 旅は終わらない
途中駅であり 道なかば
旅の続きをするために、次は列車に乗って旅立とう！と描いた絵だった。

がったん！ごっとなん 揺られながら 時を巡り
がったん！ごっとなん 踊りながら 繋がって
まだ見ぬ世界を駆け抜けたい

私の命も 1つの出会いが 次の新しい出会いに導いてくれた。
出会いが世界と繋がって いつの間に 私を遠くに運んできてくれた。
命を運ぶ列車 錆びついた街から発車した 不思議なSL
現実と空想が入り混じる世界を、心と体を揺らして進む
どんな乗客を乗せ、どんな風景に出会えるのか
楽しみでならない

汽笛を高らかに響かせ、思いっきり蒸気を吹き出し駆け抜ける。
最高の仲間たちと、新たな世界を紡ぎたい。

森山開次（演出・振付）

スペシャル・アンバサダー 応援コメント・プロフィール

あの時、東京で、パラリンピックの開会式を、どういうものにするのか、したらいいのか、何度も何度も、たくさんの人と意見を交わした。
歴史に残るものにしないといけない、と言う人もいたし、まずは自分たちが楽しまないと、と言う人もいたし、障がいを持っている人たちの希望にならないといけないと言う人もいたし、日本の文化の力を見せないといけないと言う人もいた。
しかし、きっと開会式だって、そんなに重たいものを背負わされたって窮屈だろう。

まずは参加してくれるみんな、それぞれのいろいろな夢と事情に触れること。そして、その夢と事情を受け止められる大きなお皿のような開会式になること。それがなにより大事な気がした。

結局のところ“出し物”というのはその大きさに関係なく、理念やキャッチコピーでは作れない。そこにいるみんなの生きた夢と事情が積み重なってできあがる有機体だ。うまくいけば、脳のシナプスのように手と手を繋いで刺激を与え合い、そこから生まれる電気のひらめきとやる気がいつしか膨大なアイデアとなる。

あの時、生まれた、奇跡のような“出し物”は世界中に広がった。そして幸運なことに、見た人それぞれの夢と事情を乗せて、「片翼の飛行機の少女」のように空に羽ばたいた。

あれから3年、あの時に生まれた“夢”をさらに膨らませて、今度は“列車”に乗せて旅に出る。

最初に開次さんの絵を見た時の震えは今も覚えている。誰もがこの列車に乗りたいと思うだろう。一緒に旅に出たいと思うだろう。新しい仲間も乗せて、今度はどこに行くのだろう。

実現できた夢と、実現できていない夢がまだあって、僕はこの作品にそれを託したいと（勝手に）思っている（重くてごめん！）。

みんなのエネルギーが手を繋ぎスパークすればきっとそれが出来上がるだろう。

応援しています！期待しています！楽しみです！

ウォーリー木下（スペシャル・アンバサダー）
東京2020パラリンピック開会式総合演出

■ ウォーリー木下 うおーりーきのした／スペシャル・アンバサダー



戯曲家・演出家

東京都出身。神戸大学在学中に劇団☆世界一団(現sunday)を結成。映像や音楽を取り入れた言葉を発しない、ノンバーバルパフォーマンス集団THE ORIGINAL TEMPOのプロデュースを行い、エジンバラ演劇祭にて5つ星を獲得。その後、スロベニアや韓国、ドイツなどと国際共同製作を行い、海外からも高い評価を得ている。ストリートシアターフェストレンジード静岡など様々な演劇祭でフェスティバルディレクターを務めている。近年の代表作にミュージカル『チャーリーとチョコレート工場』、ハイパープロジェクション演劇『ハイキュー!!』シリーズなどがある。第49回菊田一夫演劇賞を受賞。東京2020パラリンピック開会式総合演出。

アーティストプロフィール②

■ 蓮沼執太 はすめま しゅうた / 音楽



音楽家

1983年、東京都生まれ。蓮沼執太フィルを組織して、国内外での音楽公演をはじめ、多数の音楽制作を行う。また「作曲」という手法を応用し物質的な表現を用いて、彫刻、映像、インスタレーション、パフォーマンスなどを制作する。主な個展に「Compositions」(PioneerWorks、ニューヨーク/2018)、「～ing」(資生堂ギャラリー、東京/2018)などがある。また、近年のプロジェクトやグループ展に「Someone's public and private / Something's public and private」(Tompkins Square Park、ニューヨーク/2019)、「FACES」(SCAI PIRAMIDE、東京/2021)など。最新アルバムに『unpeople』(2023)。第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。東京2020パラリンピック開会式ではパラリンピック讃歌編曲及び障害の有無を超えたミュージシャンで構成されたパラ楽団を指揮。

■ 和合由依 わごう ゆい / 出演



©細野晋司

2008年生まれ。

一般公募の中から、東京2020パラリンピック開会式で「片翼の小さな飛行機」役に選ばれる。(2021年8月)
NHK土曜ドラマ「パーセント」出演 宮島ハル役(2024年5月)。
映画バーティカルサイト「ひとシネマ」(毎日新聞社)にてコラムを執筆中。
特技は楽器演奏(ユーフォニアム)

■ 栗栖 良依 くりす よしえ / アクセシビリティディレクター



アートプロデューサー・SLOW LABEL創設者/芸術監督

異文化の人やコミュニティをつなげ、対話や協働のプロセスで社会変革を試みる市民参加型作品を多く手がける。2010年に骨肉腫を患い障害福祉の世界に出会い、SLOW LABEL(現・認定NPO法人スローレーベル)設立。ヨコハマ・パトリエンナレ(2014,2017,2020)では総合ディレクターとして障害のある人の創作活動におけるアクセシビリティの仕組みを開発。2019年にはシルク・ドゥ・ソレイユの支援を受けて日本初のソーシャルサーカス団SLOW CIRCUSプロデュース。リオパラリンピック開会式・旗引継ぎ式、東京2020パラリンピック開閉会式では、ステージアドバイザーとしてDE&Iを総合監修、東京芸術劇場社会共生委員、TBS「ひろびり」レギュラーコメンテーターなど。

■ 廣川 麻子 ひろかわ あさこ / アクセシビリティアドバイザー



先天性ろう者、東京出身。和光大学在学中の1994年(社福)トット基金日本ろう者劇団入団、俳優、制作として活動中。

2009年ダスキン障害者リーダー育成海外派遣事業第29期生として英国Graeae Theatre Companyにて研修。2012年シアター・アクセシビリティ・ネットワーク(TA-net)設立。2015年度芸術選奨文部科学大臣新人賞(芸術振興部門)受賞。2016年読売福祉文化賞、2022年糸賀一雄記念未来賞、2024年プラチナ・ギルドアワードをTA-netとして受賞。文化庁文化審議会(2017年度)文化政策部会舞台芸術専門委員、文化庁障害者文化芸術活動推進有識者会議構成員ほか。2018年より東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野ユーザーリサーチャー/特任研究員として芸術文化におけるアクセスを研究中。

本作を通じて、東京芸術劇場が目指すこと

東京都の芸術文化施設である東京芸術劇場は、日本の舞台芸術を牽引する劇場として多彩な舞台芸術を生み出し、誰もが共に生きる社会の実現を目指し芸術的な活動に取り組んできました。TOKYO FORWARD 2025 文化プログラムの一環として、これらの活動の集大成となる本作を創作します。また開催にあたり、東京芸術劇場の実績と専門知識を活かして創作に取り組み、共創的なクリエイション、鑑賞機会の充実を図ります。

社会共生事業と創造事業の連携企画

東京芸術劇場では、社会共生事業を劇場の活動の重要な柱として位置づけ、継続して社会包摂的な取り組みを行ってきました。また演劇・舞踊の創造事業では数々のオリジナル作品を創作し演劇賞も多数受賞、その活動を高く評価されました。公共的な創造活動を牽引する劇場として社会共生事業と演劇・舞踊創造事業の専門スタッフが連携し、実績を活かして芸術性と社会包摂的意義が両立する魅力的な作品づくりに取り組めます。

多様な表現者と共創環境の創出

さまざまな障害や特性のある出演者を安心安全に迎えらるるリハーサル環境をつくり、それぞれの違いを活かしあうことで生まれる新たな表現を創り出します。

多様な鑑賞者に向けた鑑賞機会の充実

作品に対するアクセシビリティを充実させることで、日頃、舞台芸術に触れる機会のない人にも鑑賞の機会を届けていきます。

“多様な個性の躍動”の継承と新たな創作

高い評価を得た開会式が実現した理由は多様な表現者を支えた素晴らしいチームにあります。多様性と芸術性を両立させたチームが築いた絆／レガシーを受け継ぎ、開会式の感動を一過性にせず、先に繋がる新たな展開に取り組めます。開会式から4年、“多様な個性が躍動”する新たな物語が、東京2020パラリンピック開催の地・東京から生まれます。

【問い合わせ先】

生活文化スポーツ局文化振興部企画調整課 電話：03-5000-7229

(制作) 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場 事業企画課 電話：03-5391-2115

(広報) 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場 広報営業係 電話：03-5391-2117

メール：pr@geigeki.jp ※設備更新工事を行うため、2024年9月30日～2025年7月中（予定）の期間、休館いたします。